

入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
<p>■学力検査: 3/2(水)</p> <p>■面接・特色検査: 3/3(木)</p> <p>*一部の高校のみ</p>	2/19(金) 、22(月)	3/10(木)	1、2年生の学年評定+3年生の2学期評定 *各高校で学年比率を乗じて算出

教育のプロ
トライさん



傾向

平成23年度より、前期・後期選抜が一本化され、「調査書+5教科学力検査+(面接・実技)」で選抜が行われる。調査書の学習の記録の得点は、高校ごとに学年比率を定めており、中3の比率が高い高校が多い。また「調査書の得点:学力検査得点の比率」も高校ごとに定めていて、中堅高～上位高は学力検査のウェイトが高い傾向がある。平成27年度の実験倍率は、全校で1.18倍と26年度と変わらなかったが、安全志向が働き、地域2番手校で1.5倍を超える高校も。

科目別対策

英語

平成27年度は、大問5題、小問30題程度の構成で例年と大きな変化はなし。特徴としては、リスニング問題の配点が28/100点と、全体の約3割を占めること。また、テーマに沿って記述する条件英作文(8/100点)がある。28年度も変わらず出題されると思われるため、日頃からの訓練が必要。長文は3題あるが、さほど難易度は高くない。全体を和訳する練習をしておこう。

数学

平成27年度は、大問4題小問21題とほぼ例年通りの出題となった。他都道府県と比較すると難易度が高いことが特徴。計算問題を中心とした大問1の配点が50/100と、全体の半分を占める。確実な計算力と公式が使えるようになることが最優先事項となる。大問4では、例年紙を折る図形問題の難易度が高い。まずは1～3の取れる問題で確実に得点すること。

国語

例年、大問5問で構成。読解問題2問(小説・論説文が各1問)、言葉の知識1問、古典1問、作文1問で出題される。平成27年度の配点では、読解50/100、言葉の知識28/100、古典12/100、作文16/100であった。時間配分から考えて、作文は10分以内に完成できるように練習が必要。言葉の知識は文字通り「国語知識」だけで得点できるので、整理しておき、確実な得点源としたところ。

理科

大問5問で構成。各分野全ての問題がバランスよく出題される。近年、実験や観察が重視されつつあり、実験結果から考察・記述、作図する問題が増加傾向にある。用語や結果を覚えているだけでは対応できない問題が多いので、過程も含めて理解する必要がある。頻出単元は「電流とその利用」「光と音」「化学変化と原子・分詞」「動物・植物の体のつくりとはたらき」「気象とその変化」など。

社会

大問6問で構成。地理・歴史・公民からそれぞれバランスよく出題されている。選択問題よりも記述問題の方が多く、資料・グラフから内容を把握して説明を求める論述問題が増加傾向にある。そのため、地図・年表・統計などの読み取りと自分の意見を簡潔にまとめる力が必要となる。各分野とも、現代社会と関連した問題が出題される傾向にあるので、時事問題にも関心を持っておくこと。